

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	長岡技術科学大学	整理番号	1808
プログラム名称	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム		
プログラム責任者	和田 安弘	プログラムコーディネーター	梅田 実

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 □ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 □ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 □ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 □ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、新産業を創成できる情報システムに精通したタフなイノベティブ人材を育成するという目標のもと、「グローバル超実践ルートテクノロジープログラム」が機能している。KPI 全 14 項目中 12 項目を前倒しで達成しており、評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、実践的なプログラムを推進するとともに、新たに俯瞰力、創造力を育成するための分野横断科目を新設し、2022 年度には本プログラムを活用した全学的な教育・組織改革を実施する等、常にプログラムを進化させ、積極的に改革を推進していることは評価できる。既にベンチャー企業 5 社設立、3 社が設立準備中と実績を挙げており、研究の社会実装に向けた様々なチャレンジが進められていることは評価できる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、地域行政との連携、国際的実践教育「コンソーシアム」の構築、企業と連携した「オープンイノベーションキャンパス」や「アイデア開発道場」等の実践的な教育手法を推進するとともに、SDG 9 のハブ大学として、世界水準の SDGs コンソーシアムの構築を目指していることは評価できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、社会人や他専攻からの学生の受け入れ等の新たな取組は評価できる。女子学生の獲得等、多様な学生の獲得という観点から、本プログラムの魅力をより広くアピールしていくことが期待される。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、海外大学教員や連携企業による多面的な評価に加え、ユネスコによる教育認証など国際的な質保証への取組が進められていることは評価できる。</p>
--

事業の継続・発展については、共同研究や受託研究によって、目標を上回る学外資金を獲得していることに加え、「SDGs 推進私募債」の寄付先に指定される等継続的な寄付金獲得にも取り組んでおり、評価できる。